

第七次前橋市総合計画第3期推進計画（案）に関するパブリックコメントの実施結果について

前橋市政策推進課

前橋市パブリックコメント手続実施要綱に基づき、いただいたご意見に対する市の考え方を公表します。取り纏めの都合上、いただいた意見を一部要約しています。今回いただいたご意見を参考に、第七次前橋市総合計画2025改訂版（第3期推進計画）を策定しました。

なお、計画に直接反映しないご提言・ご意見等については、今後の施策の参考にしていまいります。大変貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

- 意見募集期間…令和7年2月5日（水）から令和7年3月4日（火）まで
- 意見提出者数：4人
- 意見件数：11件

No	該当箇所・区分	項数	意見の概要等	市の考え方
1	全体	—	外国人の受け入れに反対します。埼玉県川口市をモデルに考えていただきたいです。前橋市も直近外国人居住者が増加傾向にありますが、外国人の増加に伴い日本人の人口も減ると思います。外国人は犯罪率が高く、治安も悪くなります。前橋市も川口市みたいになりたいのでしょうか。人口を増やしたいのであれば、まずは日本国内の日本人が前橋市に魅力を感じ、転居してくるのが一番です。 SDGsやグローバルリストの思考には断固反対します。	本市在住の外国人住民数は2013年度以降、年々増加傾向にあります。留学生の急増などの要因によって増加幅が増えていることに加え、日本人の住民数が減少しているため、人口に占める割合も増加しています。また、外国人を雇用する事業者は911事業所、外国人労働者は9,631人となっており、本市の産業を支えている側面もあります。 高齢化や国際化が進む中、本市では、共生社会の推進に向けて雇用する企業へのヒアリングや、留学生へのインタビュー、また、自治会長へのアンケート調査を実施し、外国人の生活実態の把握に努めています。外国人との共生には、受け入れる側の理解も重要になることから、今後も、教育や地域活動を通じて、多様性への理解を深め、それぞれの市民が孤立することなく、安心して暮らせる社会を目指してまいります。
2	全体	—	子育て世帯にとって住みやすい街にしてほしいです。 高崎市と比較しても、前橋市は子育て世帯の還元が少ないです。例えば商品券の配布や給付金など高崎市の方が充実しています。 市営の遊び場なども少なく、雨の日などは元気21がけやきウォークしか行く場所がありません。 結局桐生市の遊び場に人を取られていないでしょうか。	第七次前橋市総合計画で6つの柱を掲げてまちづくりを推進しています。特に第2章「希望を叶えるまちづくり（結婚・出産・子育て）」では、「子育て支援の充実」、「子育てと仕事の両立支援」を重点施策としてこれまで取り組んでまいりました。 今回の計画改訂においては、「未来への投資」（こども政策）という視点を意識し改訂作業を行っております。今後も、「子育てするなら前橋市」といったイメージの定着に向けて、子育て世代や若い世代にも選ばれるまちを目指し、こども・子育てに関する施策を重点的に進めてまいります。
3	全体	—	県外から見て魅力的なスポットが皆無だと思います。 高崎市の観音山ファミリーパーク、草津、伊香保の温泉街、渋川のグリーン牧場と比較して、県外から見て行きたい場所がありません。 市役所のみなさんも遊びに行きたいと思える場所が前橋市にありますか。けやきウォーク、赤城道の駅、南モールこんな商業施設他の県にもたくさんあります。大手リゾートホテルと契約して赤城を軽井沢や那須みたいに盛り上げたいかがでしょうか。	第七次前橋市総合計画で6つの柱を掲げてまちづくりを推進しています。第5章「魅力あふれるまちづくり（シティプロモーション）」では、赤城山や本市が有する文化資源等、地域資源を活かした観光振興の取組を進めています。その結果、本市への移住者は2017年度の83人から、直近の2023年度には191人まで増加している状況です。 今回の改訂においては、地域に対する市民の誇りや愛着を向上させることを目的に、前橋市の魅力を高める取組や発信を積極的に行い、赤城山を核とした観光振興の促進や、多様な主体と連携した魅力づくりを進め、前橋らしさの創出に取組んでいきたいと考えています。

4	社会経済等の背景	1.社会状況 【追加文案】 地球環境問題は現代社会において避けられない重要な課題です。気候変動、生物多様性の減少、海洋汚染など、さまざまな問題が地球全体に影響を及ぼしており、持続可能な未来を築くためには早急な対応が求められます。気候変動は温室効果ガスの排出が原因であり、再生可能エネルギーの利用拡大や低炭素エネルギーの導入が不可欠です。 本市においても、環境問題はさまざまな分野と密接に関連しています。また、豊かな自然は、本市にとって大きな魅力の一つです。市民・事業者・行政が協働し、自然と共生した環境負荷の少ない持続可能なまちづくりを進めていくことが求められます。 2【理由】 ◆文案の通り、環境問題は様々な分野と密接に関連しており、前橋市様の目指す『持続可能なまちづくり』に向けて切り離すことのできない重要な要素だと思料いたします。 ◆第6章持続可能なまちづくり（都市基盤）における、環境配慮型社会の形成を推進する要因であり、『水と緑の健康都市宣言』・『前橋市環境宣言』・『2050ゼロカーボンシティまえばし』等の各宣言を表明している状況を加味し、地球環境に関する文言を社会状況に追記することをご提案します。	ご意見のとおり、環境問題については様々な分野との関係性が深く、その重要度は増していくものと考えています。本市で掲げる6つのまちづくりの柱の1つである「持続可能なまちづくり」では、道路交通網や上下水道など生活基盤を支えるハード整備、また、コンパクトシティの推進、公共交通の維持・充実などを重点的に進めると同時に、GXの推進など環境問題を意識した事業にも取り組んでおります。 ご意見をいただいたとおり、環境問題は本市の施策を検討する上で非常に大切な要素となるため、「社会経済等の背景（本市を取り巻く現状）」の項目に「気候変動等の環境問題の変化」という内容を追加いたします。 （追加項目、文） 9 気候変動等の環境問題の変化 地球環境問題は現代社会において避けられない重要な課題です。気候変動、生物多様性の減少、海洋汚染など、さまざまな問題が地球全体に影響を及ぼしており、持続可能な未来を築くためには早急な対応が求められます。気候変動は温室効果ガスの排出等が要因であり、再生可能エネルギーの利用拡大や低炭素エネルギーの導入が不可欠です。 本市においても、環境問題はさまざまな分野と密接に関連しています。また、豊かな自然は、本市にとって大きな魅力の一つです。市民、企業・団体、行政が協働し、自然と共生した環境負荷の少ない持続可能なまちづくりを進めていくことが求められます。
5	本市の現状	9 素案9項の上段の表記載ですが2040年から2040年となっています。これは2060年の間違いではないでしょうか。	ご意見ありがとうございます。こちらは、パブリックコメント募集にかかる「第七次前橋市総合計画（案）」作成時の誤記のため修正いたします。
6	市民ニーズの把握	17 約3,000人への市民アンケート（15歳以上）の結果についてですが、前橋市は住みやすい、ずっと住み続けたいとの問いは年代によって大きな差があると思われます。ただし、アンケート回答者の年代別構成比もなければ年代別分類も無いので課題が見えにくいと感じます。 直近の県立高校生1年生から3年生へのアンケートでは将来Uターン希望者は11%と非常に厳しい状況ですので、なぜ故郷に帰ってきてくれないのかをしっかりと聞き取る必要性を感じます。	2023年度に実施したアンケートは、様々な年代を対象に実施しています。その中で、「前橋市は住みやすいですか」という設問について、本冊に記載している「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の回答割合を見ると、性別で比較すると男女共に約86%となっており、大きな差はみられません。年代別に見ると10歳代が91.3%と最も高く、次いで30代が87.8%となっています。 また、「住み続けたいと思いますか」との設問に対して、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合は70代が91.9%と最も高く、60代91.6%、50代85.6%の順となっています。 総合計画本冊への掲載はスペースの都合上、アンケート総数の実績の経年変化を記載していますが、ご意見を踏まえまして、アンケート詳細を確認できる前橋市HPのURLと二次元コードを追加で掲載いたします。 若者の定着は本市にとって重要な課題です。2024年度には2023年4月から2024年3月までの間に本市から転出、または本市へ転入した18歳から39歳までの男女2,000人に対して、転入出の理由等についてアンケートを実施しました。今後、これらのアンケートの分析結果の活用、ヒアリング調査などによって各種施策を検討してまいります。なお、総合計画においては「若者の定着・還流促進」という重点事業を設定し、地元への愛着を育むことや、同世代との繋がりをを感じる機会の提供等の取組を通じて、若者達に選ばれるまちづくりへ繋げられるよう事業を推進してまいります。

7	市民ニーズの把握	19	こども・若者意識調査（2024年）の結果は非常に興味深いですが、YES/NOの設問だけではなく、前橋が好きではないところ、明るい希望が持てない理由も知りたいです。 いずれにしても3月公開予定のアンケート結果は市長のコメントも入れて広く市民に公開していただきたいです。	こども・若者意識調査については、対象の小学生、中学生、高校生の負担を考慮して、選択式の設問を基本として行いました。「前橋が好きでないところ」、「明るい希望が持てない理由」については質問で聴いていませんが、自由意見をいただいた質問もあり、主な意見については別途、調査結果報告書に掲載して市ホームページで公表していますのでご覧ください。 なお、公表している調査結果報告書には市長のコメントは掲載しておりませんが、調査結果は市長へ報告し、こどもの笑顔があふれるまちの実現に向けて、「前橋市こども計画」の策定など、引き続き取組を進めていきたいと考えております。 （市ホームページ） https://www.city.maebashi.gunma.jp/kosodate_kyoiku/2/1/43964.html
8	魅力あふれるまちづくり		観光入込数の年間来場者数の2027年目標が現状（2023年）より大幅減少となっていますが、その理由はどのようなものでしょうか。 私の想像ですが2023年は道の駅「まえばし赤城」の開業年特需を考慮しての2027年目標ではないかと考えます。 しかし2年間休業の群馬フラワーパークや赤城大沼の再開発による集客増や他の観光政策はどう考えての目標設定なのでしょう。 ※赤城南麓7施設がどこなのか不明なため質問がずれていれば申し訳ありません	2023年に道の駅「まえばし赤城」が開業し、初年度約440万人の方がご来場くださいました。指標設定についてはお見込みの通り、この影響を考慮したものです。 2025年度にリニューアルオープンを予定するぐまフラワーパークプラスや、赤城大沼の再開発の主な実施主体は群馬県となりますが、多くの方に来ていただけるよう群馬県と連携し、準備を進めております。またソフト面では、観光コンベンション協会とともに、データを活用した効果的なツアー造成などに取組んでいます。本市のアイコンである赤城山を核に、観光地としても魅力あふれるまちとなるよう努めてまいります。
9	持続可能なまちづくり	—	生活道路として長瀬線をよく利用しているが、南町や六供町方面に向かう時に南部大橋を利用することが多いです。 その際に、周辺住民はじめ同じ道路を通行するため、長瀬線の慢性的な渋滞の大きな要因となっています。 また、古市町及び箱田町方面に向かう時も、細い道路の整備のみで大通りに出るために長瀬線の渋滞に巻き込まれることが多々あります。 これらを解消するために、現在計画されている下記都市計画道路の早期整備が必要と考えられますので、市民の生活の質向上のために検討をお願いしたいです。 ・江田天川大島線 ・上新田前箱田線 ・古市新田線	第七次前橋市総合計画では、交通環境を整備し、市内外を様々な手段で安全で快適に移動できる生活を実現することを目標に、「交通ネットワークの充実」を重点施策として位置づけています。 ご意見のとおり、道路環境整備は市民生活に直結する課題として認識しています。幹線道路整備事業を推進し、市内の円滑な交通移動ができるよう取り組んでまいります。 江田天川大島線は利根川以東については整備完了しました。利根川に架ける新橋以西の未整備区間については、県道昇格及び新規事業化に向けて群馬県に継続的に要望してまいります。 上新田前箱田線については、現在施工中であり、令和12年度の完成を目指し整備を進めております。 古市新田線については、群馬県で管理する路線となりますが、道路整備事業においては国や県へ働きかけるなど、快適で安全に通行できる道路環境整備に努めてまいります。
10	持続可能なまちづくり	94	P94 03 環境配慮型社会の形成 現状と課題 【原文】 環境の保護は、前橋だけに留まらない重要な課題ですが、その実現には、市民一人ひとりの意識を高めることが求められています 【追記・修正案】 環境配慮型社会の形成には、市民・事業者・行政が協業し、自然と共生した環境負荷の少ない取組を推進していくことが求められています 【理由】 市民一人ひとりの意識を高めるためにも、事業者や行政が環境啓発の取組を推進する必要があり、事業者・行政においても環境負荷の少ない取組を推進することが環境配慮型社会の形成に繋がると思料いたします。	ご意見のとおり、市民、企業・団体、行政それぞれが自分事として、環境を保護することや、環境負荷の少ない取組や行動をとれるよう意識を高めていく必要があると認識しています。持続可能なまちづくりを進めるため、環境配慮型社会の形成は必須であると考えますので、現状と課題欄について市民、企業・団体、行政の連携等について追記いたします。 （修正後） 環境配慮型社会の形成に向け、市民、企業・団体、行政が協働し、環境負荷の少ない取組を推進するため、市民一人ひとりの意識を高めることが求められています。

11	持続可能なまちづくり	94	P94 03 環境配慮型社会の形成 市民の期待する役割 【原文】 環境に配慮した製品・サービスなどの選択 【追記文案】 環境に配慮したエネルギー・製品・サービスなどの選択 【理由】 温室効果ガス排出量削減には、市民にも環境に配慮したエネルギー（再生可能エネルギーや低炭素エネルギー）を選択していただく必要があると思料いたします。	ご意見のとおり、温室効果ガス排出量削減に向けた具体的な行動として、再生可能エネルギーや低炭素エネルギーなどを選択することも重要な視点だと認識しています。つきましては、市民に期待する役割として「エネルギー」の視点を追加いたします。 （修正後） 環境に配慮した製品・サービス、エネルギーなどの選択
----	------------	----	--	--